

評価者	消防長	芥川 忠
-----	-----	------

評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	防災・安全	施策の方針	消防機能の整備・充実
目標とすべきまちの姿	消防施設は老朽化耐震対策が実施され安定的に火災等への対応がなされています。消防救急無線はデジタル化が図られ、緊急時にも適切な情報通信が可能となっています。市民の防火・防災意識は高く、すべての一般住宅には住宅用火災警報器が設置され、災害時の避難誘導等の減災体制は消防団、自主防災組織などの連携が効果的に行われています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度(2018年度)	16.2%	平成29年度(2017年度)	14.8%	平成28年度(2016年度)	14.7%
	平成27年度(2015年度)	16.7%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.3%	1.3%	0.5%
ちょうどよい	4.1%	58.7%	1.0%
効果不十分	3.5%	1.0%	7.8%

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.4%	1.8%	0.5%
ちょうどよい	4.4%	58.0%	1.6%
効果不十分	2.5%	1.9%	8.6%

平成29年度(2017年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.8%	2.7%	0.7%
ちょうどよい	3.7%	59.7%	1.6%
効果不十分	1.6%	2.5%	6.6%

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.1%	1.3%	0.6%
ちょうどよい	5.3%	57.4%	1.9%
効果不十分	2.7%	1.4%	5.7%

平成27年度(2015年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	18.8%	57.0%	3.1%	21.0%
平成29年度(2017年度)	18.3%	59.8%	2.1%	19.9%
平成28年度(2016年度)	17.2%	61.8%	1.8%	19.2%
平成27年度(2015年度)	15.5%	59.9%	2.1%	22.5%

2 内部評価

(1) 平成30年度(2018年度)の目標

平成29年度に引き続き、消防活動の拠点となる消防庁舎の適切な維持管理を行うとともに、消防団器具置場の耐震補強についても計画をもって実施していく。(消防-04)
 平成29年度に引き続き、職員に対して継続的訓練を実施し技術の向上を図る。(鎌倉・大船消防署警防活動)
 平成29年度に引き続き、高機能消防指令センター構築による円滑な指揮命令及び災害活動の充実を図る。(消防-09)
 平成29年度に引き続き、市民の救命率を向上するため、コンビニエンスストア等に設置したAEDの適切な運用及び救急講習の受講人員の向上を図る。(消防-06)
 平成29年度に引き続き、市民の防火防災意識の向上を目指すとともに防火管理指導の徹底を図る。(消防-10)
 消防団の装備充実を図り、訓練を実施し常備消防との連携を図る。(消防-03)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

消防庁舎の適切な維持管理を行うことで、安定的な災害への対応がなされる。(消防-04)
 各種災害対応への実戦訓練をすることで、安定的な災害への対応がなされる。(鎌倉・大船消防署警防活動)
 高機能消防指令センターの効率的な運用を実施することで迅速な指揮命令が構築され、安定的な火災等への対応がなされる。(消防-09)
 「目標とすべきまちの姿」には具体的な記述はないものの、AEDの普及や救急講習の受講人員が増加することで、救命率の向上が図られ、救急体制が充実し、市民が安心して暮らせるまちに近づくことができる。(消防-06)
 防火対象物への立入検査を計画的及び継続的に実施することで防火意識の向上が図ることができる。また、市内の住宅用火災警報器の設置率を調査し、その結果から設置率向上に向けた取組みを行うことで市民の防火意識の向上が図ることができる。(消防-10)
 消防団の装備充実と訓練の成果により市民の防火意識の向上とともに、減災体制の確立がなされる。(消防-03)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
		平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)		事業 内容	予算 規模
消防-01	消防運営事業	45,428	41,683	81,678	82,983	4.5	4.5	無	b	B
消防-02	消防施設管理事業	18,211	18,508	26,267	29,853	1.0	1.0	無	b	B
消防-03	消防団運営事業	63,848	73,566	71,904	83,750	1.0	1.0	無	b	A
消防-04	消防施設整備事業	2,826	2,474	6,854	4,206	0.5	0.5	無	b	B
消防-05	警防活動事業	24,328	21,203	40,299	45,432	2.0	1.8	無	b	B
消防-06	救急活動事業	15,446	14,419	23,432	38,694	1.0	2.0	無	b	A
消防-07	消火栓管理事業	5,025	3,565	13,011	10,412	1.0	0.2	無	b	B
消防-08	車両購入手業	98,271	69,659	106,257	253,314	1.0	1.0	無	b	B
消防-09	指令活動事業	85,573	79,053	193,041	238,471	13.0	13.0	無	b	B
消防-10	予防活動事業	961	928	82,945	90,680	10.5	11.0	無	b	B
-	鎌倉・大船消防署警防活動	0	0	1,576,879	1,584,947	192.0	195.0	無	b	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】
 消防団員の安全確保・活動サポートのため救命胴衣及び非常用飲食糧の配備を行った。(消防-03)
 消防団器具置場(第27・28分団)の耐震改修工事設計を委託により行った。(消防-04)
 救命率向上のため市内コンビニエンスストアのAED設置を継続して進めた。(消防-06)
 偵察用無人航空機(ドローン)の導入・運用を行い、災害現場の情報収集を行った。(消防-09)
 市内防火対象物に対し防火査察を実施し、消防法令違反対象物に是正指導を行った。(消防-10)
 継続的に訓練を実施し、消防技術の向上や経験・知識不足解消に努めた。(鎌倉・大船消防署活動)

【実施できなかった事業とその理由等】
 救急救命士の新規養成事業は、救急救命士の有資格者が退職していくなかで、今後の配置のため養成が必要である。(消防-06)
 消防団器具置場(第27・28分団)は耐震改修工事設計の結果、試算額が高額であったことから、耐震改修以外の方法も検討することとし、見送った。(消防-04)
 建物の増築等により消防用設備等の設置が必要となる防火対象物があり、法令に適合した設置指導を行っているところではあるが、改善されないため消防法令違反となる防火対象物がある。(消防-10)

(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	適切	要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	適切	要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	適切	要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	適切	要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

・各消防署では継続的な訓練を実施し、若年職員を含めた職員個々の消防技術の向上や知識、経験不足の解消が図られたことにより、効率・有効性の点で適切と評価した。
 ・偵察用無人航空機(ドローン)の導入を行い、災害現場の情報収集能力の向上し効率性が図られたことにより適切と評価した。
 ・消防車両の経年を見極め、更新計画に基づいて予算の範囲で最新鋭の車両への更新を行い、消防力の向上に努めたため、適切と評価した。

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

消防団器具置場(第27・28分団)は、地域の実情に合わせ耐震改修、改築等の検討を進めていく。(消防-03)
 多種多様化する災害に備え、今後も継続的に訓練を実施し災害対策への強化を図っていく。(鎌倉・大船消防署活動)
 高機能消防指令センターの適切な維持管理を行うとともに、システム操作研修を適宜実施し、迅速な出動指令体制を続けていく。(消防-09) 救命率向上をめざし、市民へ市内のコンビニエンスストアに設置したAEDの周知及び維持管理の徹底を図る。(消防-06)
 増加傾向にある救急需要に対応していくため、救急救命士の教育・養成を行い救急現場における救急体制の充実を図っていく。(消防-09) 市内防火対象物への防火指導及び消防法違反対象物の撲滅を継続的に実施し防火意識の向上を図る。(消防-10)

(7) 令和元年度(2019年度)の目標

引き続き、消防活動の拠点となる消防庁舎の適切な維持管理を行うとともに、消防団器具置場の耐震補強についても計画をもって実施していく。(消防-04)
 引き続き、職員に対して継続的な訓練を実施し技術の向上を図る。(鎌倉・大船消防署警防活動)
 引き続き、高機能消防指令センター構築による円滑な指揮命令及びシステム操作研修を適宜実施し災害活動の充実を図る。(消防-09)
 引き続き、市民の救命率を向上するため、市内コンビニエンスストア等に設置したAEDの適切な運用・周知及び救急講習の受講人員の向上を図る。(消防-06)
 消防法違反対象物に対しては是正指導を行うとともに、市民の防火防災意識の向上のため防火管理指導の徹底を図る。(消防-10)
 消防団の装備充実を図り、訓練を実施し常備消防との連携を図る。(消防-03)

(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

消防庁舎や消防団器具置場の適切な維持管理を行うことにより、継続して安定的な災害への対応がなされる。(消防-04)
 各種災害対応への継続的な実戦訓練をすることで、安定的な災害への対応がなされる。(鎌倉・大船消防署警防活動)
 高機能消防指令センターの効率的な運用やシステム操作研修を実施することで迅速な指揮命令が構築され、安定的な火災等への対応がなされる。(消防-09)
 「目標とすべきまちの姿」には具体的な記述はないものの、市内のAED設置場所の周知・拡大をすることで、救命率の向上が図られ、市民が安心して暮らせるまちに近づくことができる。(消防-06)
 防火対象物への立入検査を計画的及び継続的に実施することで防火意識の向上が図ることができる。また、市内の住宅用火災警報器の設置率を調査し、その結果から設置率向上に向けた取組みを行うことで市民の防火意識の向上が図ることができる。(消防-10)
 消防団に配置する装備を強化し、常備消防と訓練することにより消防団との連携が図られるとともに、災害時の減災体制が効果的に発揮できる。(消防-03)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	消防-04	事業名	消防施設整備事業							
指標の内容	消防施設の整備					単位	%	指標の傾向	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	第27・28分団器具置場は、経年を考慮し、耐震以外の可能性も検討することとした。		
消防庁舎の維持・修繕	目標値	-	-	-	耐震診断	耐震設計	改築等検討			
消防団第27・28分団の耐震補強	実績値	-	-	-	耐震診断	耐震設計				
	達成率	-	-	-	100.0%	100.0%				
整理番号	鎌倉・大船消防署	事業名	鎌倉・大船消防署警防活動							
指標の内容	各訓練等の実施日数					単位	日	指標の傾向	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
災害活動のため各種訓練を実施し組織力の向上を図るため。	目標値	-	-	-	365.0	365.0	365.0			
	実績値	-	-	-	365.0	365.0				
	達成率	-	-	-	100.0%	100.0%				
整理番号	消防-06	事業名	救急活動事業							
指標の内容	救急講習の達成率					単位	人	指標の傾向	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
心肺蘇生法及びAEDの取扱いを習得してもらい、市民による救命率向上を図るもの	目標値	3,000.0	3,000.0	3,000.0	5,000.0	5,000.0	5,000.0			
	実績値	3,975.0	4,061.0	4,020.0	4,003.0	3,530.0				
	達成率	132.5%	135.4%	134.0%	80.1%	70.6%				
整理番号	消防-03	事業名	消防団運営事業							
指標の内容	消防団の装備充実					単位	-	指標の傾向	↗	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
消防団員が安全・迅速な活動を行うことで市民の安全を守るため。	目標値	-	-	防火衣・活動服	防火衣	救命胴衣	活動服			
	実績値	-	-	防火衣・活動服	防火衣	救命胴衣				
	達成率	-	-	100.0%	100.0%	100.0%				
整理番号	消防-10	事業名	予防活動事業							
指標の内容	住宅用火災警報器の設置状況調査率向上					単位	%	指標の傾向	↗	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
住宅火災での逃げ遅れによる火災の根絶のため	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
	実績値	84.2	71.0	72.0	79.4	81.7				
	達成率	84.2%	71.0%	72.0%	79.4%	81.7%				

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・団塊世代職員の退職により、年齢層が若返り消防業務全般の継承が急務。技術、地域情報の伝達、継続性の確保が課題。世代交代による経験不足のための実戦訓練を計画的に実施している。

・老朽化が著しい消防庁舎の維持管理について、適切な修繕補修を行い諸課題を整理する必要がある。

・有事の際、円滑に消防活動が行えるのか、緊急車両の経路を塞ぐような違法建築物等がないのか、市街地整備や建築関連部局との連携も行い、いざというときでも適切な対応がとれる環境作りも気にしてほしい。

提言

・大規模災害発生時に、消防職員のみでの災害対応は限界があり、平常時から団員の確保、各種訓練を行い、職員間の意思の疎通を図り、消防力維持を図っていく必要がある。

・「目標とすべきまちの姿」にある「災害時の避難誘導等の減災体制は消防団、自主防災組織などとの連携が効果的に行われています。」について、「避難誘導等の現在体制」とは具体的に「どの様な体制」であり、「効果的な連携」とは具体的にどの様な連携をしているのか？明確にしてそれに対応した事業を実施すべき。

質問

・高機能消防指令センターの適切な維持管理を行い、迅速な出動指令体制を続けていくとあるが高機能消防指令センターの適切な維持管理、効率的な運用の具体的な内容はどのようなものか。

・市内いたるところにAEDが設置されていますが救命率がどのくらい向上したのか。

指摘への対応、コメント等

・消防技術の伝承は全国的な課題であります。培ってきた、技術・知識を効率的に伝えるとともに、近年の災害状況や地域特有の災害に対応していくため、幅広い世代間で実戦訓練・情報交換等を計画的に進め市民の安全安心に寄与していきます。

消防庁舎は、災害時における消防活動の拠点となることから、優先順位を付け、適切に修繕・補修を行い消防の責任を果たしていきます。

消防法違反対象物について、所有者に対し、是正指導を進めるとともに、緊急車両の活動障害となり得る建築物に対しても関連部局と情報の共有を図り適切な指導・対策を行い、防火対象物内外の防火対策に努めます。

提言に対するコメント等

・消防団員は地域防災の中核として代替性のない存在であると捉え、継続した入団促進により団員確保に努めるとともに、職団員間で合同訓練等を実施し連携強化を図り、力強い消防力の構築を図っていきます。

・地域の防災・減災対策を効果的に行うため、日頃生業を持ち、有事の際に参集する消防団、住民主体の自治町内会等で結成・運営される自主防災組織が行政と連携した各種訓練を行っています。このことにより、地域住民の災害時の負傷者の救出や避難誘導・避難行動や情報伝達の習熟がなされ行政と効果的な連携が可能となり減災に努めてます。

質問に対する回答

・施行業者による専門的な機器点検や大規模災害時においても安定した稼働ができるよう継続した点検を実施しています。また、機器を最大限に活用するため、操作員の研修を促進し、更なる職員のレベルアップを図っていきます。

・AEDによる救命率の向上(完全社会復帰)は年間数件しかありませんが、市民への普及啓発・バイスタンダーCPR・市内のコンビニエンスストアや公共施設へのAED設置等により、救命への理解度は徐々に向上していると考えます。

消防機能の整備・充実

評価できるところ

- ・施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)が各事業のなかでも最も高い。
- ・救命率の向上を図るため、市内のコンビニエンスストアにAEDを設置し、市内のAED設置の普及を行った。
- ・偵察用無人航空機(ドローン)の導入・運用を行い、災害現場の情報収集を行った。
- ・市内防火対象物に対し防火査察を実施し、消防法令違反對象物に是正指導を行った。
- ・狭隘な道路など、職員による地域特性の把握、消防車両を使用して進入経路の確認等、警防研修を随時行い、災害発生時に適切な対応が図れるよう職員間で情報の共有。
- ・行政が主体となり、動いているところは成果が上がっている。
- ・これまで「消防技術の伝承が大きな課題」としてきたが、取組の評価で「継続的な訓練で消防技術の向上や知識、経験不足の解消が図られた」としてあり、評価する。

評価の内訳				委員会の評価
取組	2	0	6	
効果	1	0	-	-

課題

- ・団塊世代職員の退職により、年齢層が若返り消防業務全般の継承が急務。技術、地域情報の伝達、継続性の確保が課題。
- ・鎌倉には消防車が入れないような小さな路地がたくさんある。火災時の対応策はあるだろうが、心配である。狭隘路地へのホースの展開、消防設備機器の対応などが必要。
- ・「救急講習の達成率」が昨年度より下がってしまったのは残念。今後達成率を向上させるための対策が必要である。
- ・救急救命士の有資格者が退職して行く中で、今後の配置のために要請が必要である。なるべく早く養成事業を進めてほしい。
- ・「目標とすべきまちの姿」が限定的すぎて、「地域防災計画(地震災害対策編)」と合致しない。

提言

- ・大規模災害発生時に、消防職員のみでの災害対応は限界があり、平常時から団員の確保、各種訓練を行い、職員間の意思の疎通を図り、消防力維持を図っていく必要がある。
- ・指標「各種訓練の実施日数実績365日」は毎日実施しているというに過ぎない。成果を示す適切な指標を設定願いたい。
- ・「鎌倉市緊急事態対策計画」では「計画に定めた対策を、国、県、地方公共団体、その他の関係機関等の協力を得て実施するとともに、対策を検証し、改善、見直しを行う責務を有する。」としているが、これらが行われていない。計画に基づき検証し、計画に定められている事業の何が何%終了し、次年度は何をどのくらい推進するのかを明確にして頂きたい。

質問

- ・「高機能消防指令センターの適切な維持管理を行い、迅速な出動指令体制を続けていく」とあるが「高機能消防指令センターの適切な維持管理、効率的な運用」の具体的な内容はどのようなものか？
- ・「防火対象物に対し防火査察を実施し違反對象物に是正指導」とあるが、違反内容はどのようなものか？ その件数は？
- ・「住宅用火災警報器設置状況調査率向上」が指標となっているが、「調査の対象」は全世帯か？ 毎年実施か？ 「設置率」を指標とすべきではないか？
- ・消防団の団員数は足りているのか？